第108号 2023
ウィル あいち
交流ネット通信

01 AI 時代に生きる子供たちに必要な能力とは？

林 加那子（Amelie ’10）

人口知能（AI）の発展により私たちの仕事は奪われてしまう、と言われて久しいです。単純な学習や処理、大量データの処理、それに数値化されていることの推論については、AI の得意分野であり、ヒトの能力を完全に凌駕しているのは周知の事実になっています。

一方、デザインをする、絵を描く、小説を考えるなど、無から有を生み出す「クリエイティブ」な作業は、AI にとっては不得意とされてきました。

そんな中、センセーショナルなニュースがこの夏世界を駆け巡ったのです。「ついに AI が絵を描くようになった！」と。

私もこのニュースに衝撃を受け、早速自分で試してみました。やり方はそれほど複雑ではありません。ネット上の AI アートのサイトにアクセスし、「こんな絵を描いて欲しい」という気持ちを込めて、キーワードを打ち込むのです。

私の場合、「キャラバンサライ」という屋号で自営業を営んでいるので、それにまつわるものにしました。（キャラバンサライ＝隊商宿。私はかつて中近東に住んでいたので、砂漠やラクダに対して憧憬の気持ちが常にあるのです）。具体的には、「camel, caravanserai, feminine, chic」と入力したところ、以下のような絵が生成されました。

想像していたものよりも数段洗練されたものが出来てきて、ビックリ！ AI の底力を目の当たりにしました。

AI がクリエイティブな世界にもひたひたと浸食しつつある中、私たちヒト、とりわけこれから社会に出ていく子供たちに求められる能力はなんでしょうか？ それは、AI ありきの中で、AI をツールとして使いこなし、そこにヒトならではの感情や信用を大切にしながら、他者と高度なコミュニケーションを構築できる力ではないかと思います。

AI とヒトが共存する未来の世界が我々ヒトにとってより良いものになることを信じ、これからのデジタル社会を子供たちが力強く生き抜いていけるよう応援し続けたいと思っています。

AI アート、１点だけでなく複数の絵を提案してくれます

02 2022年ウィルあいち交流ネット学習会Ⅱ

「歴史の中の人権～女性の問題は、人権の問題である～」を開きました

金森 淑英（ベリーズ18）

今年度の交流ネットのテーマは「いくさ世を生きる私たち」。『人権が限りなく踏みにじられた時必ず戦争が起きる』との発言を礎に学びたい事を絞っていきました。

現在、私たちが願っているジェンダー平等の社会は『一人ひとりが自分らしく生きることができる社会』です。ジェンダー平等を実現するためにも今日までの歴史の中で『人権』がどのように扱われてきたのかを学び直すことが有用ではないか…と、この学習会の開催に至ったわけです。講師は歴史にも、ジェンダーにも造詣の深い日置雅子先生にお願いをしました。

『人権とは「偏に人間であるという事に基づく普遍的な権利」「人間の生存にとって欠くことのできない権利及び自由」であり、これは国家権力によって侵されないものである。現在は「国際人権法」によって保障されている』

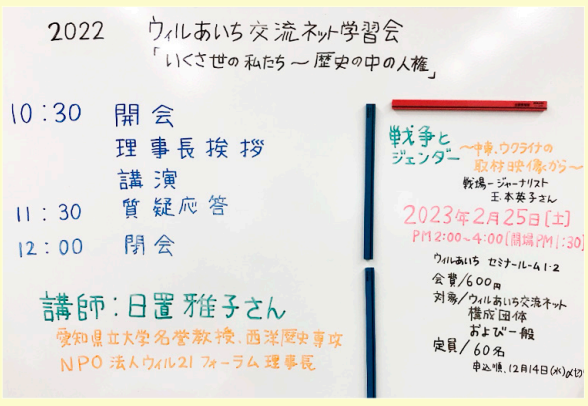
ここに至るまでの道のりはもちろん平坦なものではなかったことは想像がつきましたが思っていた以上のものでした。私は「物事はよい方向に進む」とどこかで思っています。そうでなければならないとも。しかし、こうして歴史として振り返ると「良い方向」ではなく「望まない方向」へ引き戻す因子が働くことが多々あるということが見えました。現在も俯瞰して眺めるとまさに引き戻す因子が散らばっています。さらに、歴史上で「良い方向」として権利を保障された「人」や「市民」＝男性・有産階級・白人のみであったことも出発点が負の方向へ落ちていくのを感じました。

では、女性の権利がどのように認められてきたのでしょう。

古代社会	男女性別役割の発生。女性は男性に支配されるもの	権利なし
中世の社会	封建的男女性別役割の存続	なし
近代社会	無権利状態。魔女裁判（女というだけで火あぶりの刑）	なし
18 ～ 19 世紀	フェミニズム運動。ここから女性参政権への法制化へ	△
20 世紀	第２次世界大戦後　国連「世界人権宣言」	○
21 世紀へ	新しい人権	○

なんと女性の権利が認められたのは第２次世界大戦後！ たった 80 年そこそこの事だったのです。そしてこれを獲得するためにたくさんの女性が一人の人間としてそこに立ち、立ち上がって手に入れてきたものだったのでした。同時に男女共同参画社会を望み活動する中で感じていた違和感「どうして男性には当たり前で女性にはダメなのか」に妙に納得してしまいました。当たり前です。片やはるか太古の昔からもっていたものであり、女性である私たちが歩んできた道はその権利を手に入れる真っ只中だったのですから。特に日本は女性の人権、権利の後進国です。「今」わたしたちが活動していることがこれからの未来へと続くように、道を選択しなければなりません。決して大きなことをするのではありません。ダメな物には「ダメ」という意思表示をし、必要な物にはあきらめることなく「必要である」と言い続ける。その事を託されているのだという思いを強くすることができた様に思います。

正直なところ私は学生時代「歴史」という科目が全くダメ。蕁麻疹が出るほどではないにせよ今回も心の中では「え～マジですか…」というのが本音でした。しかし、今だからこそ誰かが言っていた「歴史は繰り返す…」にならないように知恵を絞り活動を広げなければならないのだと渡されたバトンの重さをちょっと感じています。

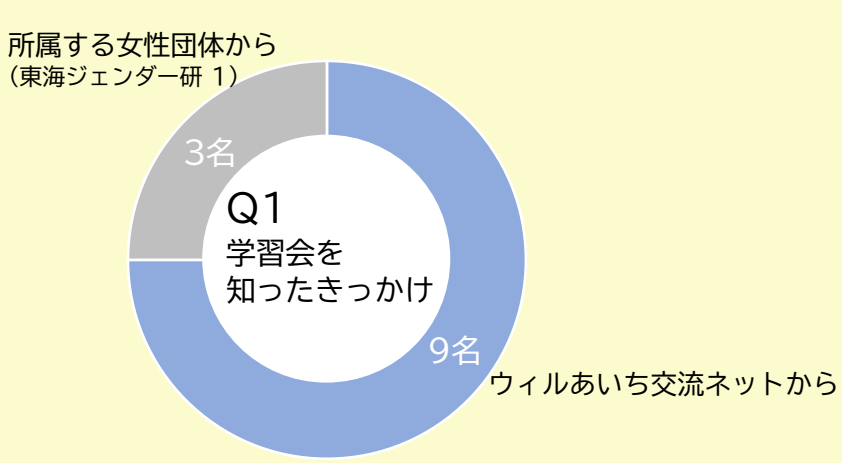


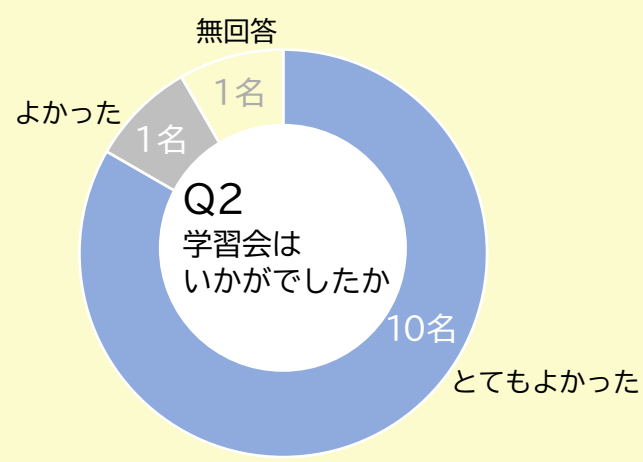
03 2022 年ウィルあいち交流ネット学習会Ⅱ

「歴史の中の人権～女性の問題は、人権の問題である～」アンケート集計

集計 森田 登喜子（ウィル 2000）

参加者18名　集計数12 枚（回収率 66%）





Ｑ３．２のお答えの理由あるいは関連する感想やご意見を自由にお書きください。

＊共通する意見には、下記のものがありました。

・長い歴史の中で、これまで注目しなかった「女性の歴史」を知ることができて、大変勉強になった。
・部分的な歴史だけではなく、長く大きい目で見ることが大切だと教えられた。
・後半の日本の女性の人権の歴史についても教えて欲しい。

＊その他の個別の意見です。

・自分たちの与えられた日常の自由があたりまえではなかったことを感じた。古代からの女性の権利であったり、完全自由人、完全不自由人としての生活の考え方を想像したことがなかったので、歴史に思いを寄せて大変勉強になった。貴重なお話、資料を振り返りたいと思う。
・日本人に欠けていること、人権の歴史がとてもよくわかった。それをふまえた上で、これから私たちはなにを考え、どう行動すべきかを、一度整理してみたい。
・忘れていた世界史を思い出させていただいた、学びとして楽しい時間だった。女性のしいたげられてきた歴史を流れの中で勉強する良い機会であった。
・ていねいな資料を用意され、おかげで先生のお話がよく理解できました。
・とても勉強になった。ヨーロッパでは大変な歴史があったこと、現代では日本より進んでいる印象がある。宗教的なことが、かなり歴史に関わっていると感じた。
・権利とは本来「闘って勝ち取るもの」！　「闘いの歴史」をわかりやすく伝えていただき、とても興味深かった。「人権の歴史」の問題をさらに知りたいと思う。後半も、ぜひ先生のお話を拝聴しながら学習したい。
・人道と戦争と人権についてわかりやすい解説で時系列で納得いく歴史が展開された。ありがとう。むずかしい内容も、言葉も、身近に感じられた。
・女性の権利の流れ、歴史がよく分かった（学生の頃に学んだが、女性という立場で考えていなかったのでフワ～と聞いていただけだった。）あらためて、女性としての立場を考えさせられた。
・とても分かり易いお話で、素敵な時間だった。日本に限らず世界の歴史の中の人権について語っていただいて、資料も解りやすくまとめられていて、また資料と一緒に今後につないでいきたいと思う。
・全体を通してこんなにも長い時代を通史として聞くことは初めてでとても新鮮だった。部分的な時代を詳しく知るだけでなく、big picture が大切だと強く思った。こんなにも長い歴史をよどみなく語ってくださってとても勉強になり感服した。

Ｑ４．これからの学習会で取り上げて欲しいことがあれば、お書きください。

・日置先生のお話を、さらに拝聴したい。（２名）
・男性の参加が１名だったが、男女比が同等に等しい学習会が望ましい。
・日置先生は質問に対してもきちんと答えられていて、多くの知識も持ってみえて、またお話を聞いてみたい。
・講師が説明された「新しい人権」についてさらに詳しく知ることができたらいいなと思う。

Ｑ５．その他の意見

・学びの大切さにあらためて気づいた。ありがとう。
・日置先生はじめ、場を作ってくださった方、お疲れさま。ありがとう。
・ありがとう。
・中絶については　女性のリプロダクティヴ・ライツが尊重されるべきだと思っている。
感染症で胎児が重篤な障害を負う場合もあり産む側の権利がまず尊重されるべきと思っている。

04 なかま de セミナー 10 月
「ホハレ峠と私 パート 2」

山田 和枝（Step07）

交流ネットの例会でホハレ峠を PR したところ、思いもかけず「感想文を書いてください」と依頼され、何の躊躇もなく「ホハレ峠と私」と題して書き出した私ですが、それを書き終えたとき、この題名に納得しがたい違和感が芽生え、それはどこから来るのか思い悩む日々でした。しかし今こそ「ホハレ峠と私」とした題名にふさわしいと思われるものがやっと私の心の内から沸きあがり、それをお伝えしなければこの私の旅は終えられないという心境に到達しました。

今に至った私の男女平等に関する活動の原点は、「家庭科の男女共修をすすめる会」の中にあります。この活動は男女別になっていた「女子は家庭科・男子は技術」となっている教科書を一緒にして未来に進もうとする活動です。

この活動は言うまでもなく“婦人差別撤廃条約”の批准に向けて国内法の整備の課題の一つとして提唱されていたものです。

私はこのような会の活動を通して、社会との関わりが少しずつ見えてきたように思います。やっと足を大地に着けて立っていると思えるようになりました。私にとってこの活動は教科書と言えるべき原点となる 1 歩でした。

ここで自分自身の位置づけを認識することはできましたが、それによって私の暮らしがすぐに変わるものではなく、そこには身近なところで私を取り巻く状況に対しどのように関わればよいのかという課題を見つけたように思います。

この世の中、様々な人々が様々な思いで生きています。わずかなご縁で私と出会った方々に対し、すべてを共有することはできなくても、人それぞれに学びあうものがあるのではないでしょうか。私はこうした身近な人々の感性を私自身も共有するには、自分自身が何か一つ欠けている人間に思えてなりません。直面する一つ一つの問題に対し、これをしたら解決するなどというものはないと思います。

ただ私自身がひたすら一人一人と向き合った時間を作り出していくしかないと思っています。1 通の手紙・ハガキの 1 枚・電話の 1 本・メールの一言にもその手がかりが隠されているように思います。

そしてこんな日常生活の積み重ねの上に、今ここに来てその極みがホハレ峠との出会いでした。ただひたすらに懸命に生きた名もなき人の人生になぜこんなにも私は感銘を受けたのでしょうか。それは大西さんを前にして「さて今日はどこから話そうか」と始まる昔語りの中へ読者として導かれ、ゆきえさんのどんな苦難も浄化され、ゆきえさんの魂だけが砂金のように輝いて私たちの前に差し出されているようなそんな読後感が全身を覆い、たまらない感動となって沸きあがってきたのです。何かと理屈好きの私がやっとつかんだ感性の世界で出会えた 1 冊であったように思えるのです。

『ホハレ峠：ダムに沈んだ徳山村 百年の軌跡』
大西暢夫著　彩流社（2020年）

そもそもこの本は私自身が見つけたものではなく、グループ結の事務局を担当する女性からの紹介です。私と彼女の立つ位置は対極にあります。彼女は広い視野もあり、普段は身近な情報をキャッチする能力にも優れ、いろいろな情報を提供してくれます。私もどれだけ助けられ教えられ反省したことか、それらによって私自身の考えもより深められたように思います。

彼女は私の「ホハレ峠と私」を読み、その文章に即してもう 1 度読んだと言ってくれました。本当に足場が固い人です。足場固めに弱い私と、そんな対極にいてくれる彼女の存在はとても貴重です。共に対極にあるもの同士の心の掛け合いがステップとなり、日々の豊かさを作り出していくこんな社会がもっと広がることを願わずにいられません。

ここまで交流ネットの皆様からこのような私のために貴重な時間と紙面をいただけたことは本当にうれしく、このような日が来るとは夢にも思わず感謝しかありません。ありがとうございました。

06 交流ネット主催イベント案内

映像ジャーナリスト 玉本英子氏 講演
『戦時下の女性たち ウクライナ･中東の取材映像から』

玉本英子写真展『紛争地に生きる人々』

ウィルあいち交流ネット参加グループ
さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学 '98 の会 /グループキートス /ウィル 2000/I.W.L
ウィル Do2002 / サーティネット '05 / ベリーズ 18 / Step07 / Fem.'09 / Amelie '10
ひかるよ '15/ そだね！ 2017/Hey Say Final/Reiwa'19/ みつ 2020/ リモート 2021
編集発行：ウィルあいち交流ネット　協力：（公財）あいち男女共同参画財団　2023年1月発行

ウィルあいち交流ネットは、
ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループによって組織されている団体です